

国際経営論特講 II

選択 2単位

瀬藤 芳哉

1. 授業の概要(ねらい)

グローバル化の中で企業の生産、販売、研究開発等はグローバルに展開されている。海外投資も活発である。先進国の大企業は勿論、中小企業や新興国の企業の活躍も目立つ。しかし、近年は米国と中国の対立が深刻化しているほか、コロナ禍がグローバルなビジネス環境に大きな変化をもたらし、企業戦略の手直しが必要になっている。またコロナ禍以前から欧米ではグローバル化が雇用を脅かすとして、反対の動きが盛んになっていた。こうした複雑な環境下で様々な課題に直面し、対応を迫られている。その中で海外展開により収益を拡大している企業は多いが、逆風を受けている企業も多い。

前期(I)では国際ビジネスを取り巻く環境、多国籍企業の歴史、グローバル化の進展等を取り上げた。後期(II)は多国籍企業の活動を具体的に取り上げる。外国市場参入、M&A、マーケティング、戦略、組織、生産、研究開発、等を中心に取り上げる。講師の実務経験(国際金融、メーカー等)を踏まえ、具体事例を紹介して分かりやすい授業を目指す。

講義が中心になるが、進度に応じ、受講生に具体的なケースについて報告してもらい、全員で討論する形をとるようにしたい。最後にレポートを仕上げて提出する。なお、受講生の希望や進行状況を踏まえて内容や日程を変えることもあります。

2. 授業の到達目標

- ・多国籍企業のグローバルな事業の現状とその背景・歴史および理論を学ぶ。ミクロ的な視点から、多国籍企業の具体的な活動内容を理解し、説明できる。
- ・日本企業等の特性と課題を考え、理論的に分析し、説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

- ・レポート60%、授業での発表(注)・参加・貢献度40%
- (注)受講生は授業において講師の提示した課題についての発表を行います。

4. 教科書・参考文献

教科書

授業内で指定します。参考文献としては以下があります。

参考文献

梶浦雅己編著 『はじめて学ぶ人のためのグローバル・ビジネス(第三版)』 文真堂

吉原英樹 『国際経営への招待』 有斐閣ブックス

吉原英樹 『国際経営』 有斐閣アルマ

5. 準備学修の内容

- ・講師の紹介した本等を読む。専門用語の意味を理解する。報告レジュメの作成。
- ・新聞、雑誌、インターネット等で企業の海外活動や多国籍企業の具体事例に触れる。

6. その他履修上の注意事項

- ・レポートの作成にあたっては、出来るだけ自分の言葉で分かりやすくまとめる。必要に応じ適切な引用を行う(「コピペ」は厳禁)。
- ・第3回はLMSによるオンライン授業を予定(仮)しています。

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイドンス 外国市場参入(輸出、フランチャイズ、ソニー、他)
- 【第2回】 外国市場参入 ボーングローバル企業
- 【第3回】 日本の電機産業(LMSによるオンライン授業 仮予定)
- 【第4回】 M&A(概観)
- 【第5回】 M&A(事例)
- 【第6回】 M&A(事例)、戦略提携(概観)
- 【第7回】 戦略提携(標準化、理論)
- 【第8回】 中間まとめ プレゼンテーション
- 【第9回】 R&D:技術・製品開発
- 【第10回】 国際マーケティング戦略 事例:キッコーマン(予定)
- 【第11回】 国際マーケティング戦略
- 【第12回】 国際経営戦略
- 【第13回】 国際経営組織
- 【第14回】 人的資源管理
- 【第15回】 まとめ プレゼンテーション